



カサ・ルイス株式会社

会社そして商品の誕生

ラ・ベルリナ、マウニエル、パナマリア、カフェ・ルイス®

カサ・ルイス株式会社は、1979年にルイス - アラウス家族と投資家、そして取締役によって形成されました。この会社は、ピリニオ・ルイス・ゴンザレス氏とその妻のエリサ・アウロラ・アラウス・デ・ルイスが1969年から一家で経営していたコーヒー農園・生産業が成長するのに伴い作られました。

カサ・ルイスの歴史

ピリニオ・ルイス・ゴンザレス氏は、ボケテ(Boquete)のコーヒー農園の2代目として1922年に生まれました。彼の母は一世紀前にコーヒー農園で生まれ育った人でした。ピリニオ氏も母と同様、幼いころからコーヒーの樹の知識を得、木製の小さな水洗式精選工場で経験を積みました。



このころは大不況の真っ最中で、コーヒー生産はこの十人家族にとってはあまりいい商売ではありませんでした。そのため、一家は主に花の栽培を中心に行い、コーヒー生産はサイドビジネスにとどまっていました。

小学校を卒業した後、ピリニオ氏はグアテマラで教会セミナーに入ったものの、経済的な理由により一年でやめ、ボケテに戻ってきました。その後は、両親の農園で働きながら地元の教会の活動に参加した後、高地野菜や花の生産に力を入れました。コーヒー生産が一家の主要生産になるのは約二十年も後のこととなります。

エリサ・アラウス・デ・ルイスは、八人兄弟の長女としてボケテの近くのドレガで1935年に生まれました。小学生のときに親戚のいるボケテに引っ越し、小学校を卒業した後、フェリックス・オリバレス・コントレラス高等学校にて小学校教師の免許を取得しました。一時教師として働いた後、ピリニオ氏と1957年11月に結婚して4人の子供をもうけ、その後は主婦としてだけでなく、夫のコーヒー農園の管理も手伝いました。子供たちが大きくなってからは、教師として復帰し、また夫の小さなオフィスで経理を担当しました。



1960年代後半になると、野菜や花だけでなくコーヒーの売れ行きもよくなり、生活が安定してくるようになりました。



カサ・ルイス株式会社

会社そして商品の誕生

ラ・ベルリナ、マウニエル、パナマリア、カフェ・ルイス®

変化が訪れたのは1970年、ボケテー辺で洪水が発生したときです。洪水の後、交通手段が途絶え、一時期は一家の安全のため引越せざるを得なくなりました。



二年間の過酷な仕事の後、一家の農園はコーヒー生産が中心になり、ピリニオ氏は焙煎会社と組み国外へのコーヒー豆の輸出を始め、1970年代には海外でも名が知られるようになりました。

これがきっかけで企業は成長し続け、現在のカサ・ルイス株式会社の誕生につながり、1980年代

には年に一から二台のコンテナの輸出のみだったのが、今ではスペシャルティコーヒーを世界中に輸出するまでになりました。中でも特に有名なのは、ラ・ベルリナ、ラ・ベルリナ・オーガニック、マウニエル、パナマリア、カフェ・ルイス・オーガニックなどです。



はじめは生産中心だったのが、後にコーヒー豆焙煎、そして流通も手がけるようになりました。

今では、三代目が働いているだけでなく、百にも及ぶ協力者による選ばれたグループとの提携により会社は成長を続けています。創業者のピリニオ氏と妻のエリサによって築かれた原理は、今でも受け継がれているのです。

